

平成 30 年度

施設評価調書

施設の名称……青少年海の家

所管担当課……教育委員会生涯学習課

平成 30 年 7 月

平成 30 年度	施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家	番号	22
----------	----------	------------	----	----

設置目的の達成度

1 計画(Plan)と実績(Do)

設 置 目 的	青少年の健全育成を図るため					
運 営 事 業 名	H28 年実績値	H29 年目標値	H29 年実績値	対前年比	目標達成率	評価
施設総利用者数	3,250 人	4,100 人	3,195 人	98.3%	77.9%	C
市内利用者数	388 人	950 人	556 人	143.3%	58.5%	D
設置目的に対する総合評価						D
目 的 達 成 度 の 評 価 基 準	青少年の施設利用の増加が運営目的となるため、年間利用者数を評価基準とした。 評価基準：A=100%以上、B=80～99%、C=60～79%、D=40～59%、E=40%以下					

2 現状分析(Check)

運 営 事 業 の 意 義 と 現 状	地元区誘致の教育旅行の研修場所としての利用がほとんどを占める。
上 記 の 原 因	平成 24 年 4 月より、施設の耐震性を考慮し宿泊制限を実施。

3 次年度以降への改善点(Action)

具 体 的 な 改 善 方 策	地元区との協働により施設の良好な管理と有効利用に努めたい。		
H29 年度運営 事業と目標値	運 営 事 業 名	H30 年度目標値	備 考
	施設総利用者数の増加	4,100 人	過去五年間の最多利用者数（H26）
	市内利用者数の増加	950 人	過去五年間の最多利用者数（H26）

※参考 前年度までの運営事業の実績値と評価 *上欄=目標値、下欄=実績値

運 営 事 業 名	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
総合評価	B	A	C	D
施設総利用者数	3,440 人	3,440 人	4,100 人	4,100 人
	3,277 人	4,127 人	3,701 人	3,250 人
市内利用者数	760 人	760 人	950 人	950 人
	628 人	957 人	797 人	388 人

平成 30 年度	施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家	番号	22
----------	----------	------------	----	----

効 率 性

1 計画(Plan)と実績(Do)

効率性指標		H28 年実績値	H29 年目標値	H29 年実績値	対前年比	目標達成率
①利用単位 当たり経費	A 施設総利用 者数等	3,250 人	4,100 人	3,195 人	98.3%	77.9%
	B 年間経費 (除く収入)	555,863 円	639,453 円	767,056 円	138.0%	83.4%
	B / A	171.03 円	155.9 円	240.08 円	140.4%	64.9%
②光熱水費		69,245 円	87,000 円	74,047 円	106.9%	117.5%
③消耗品費		6,220 円	13,000 円	12,873 円	207.0%	101.0%
効率性指標の考え方等		施設総利用者数：会議室等利用者（教育旅行、各種研修。地元区利用、目的外使用） の実数を集計した。 目標値 A：過去 5 年間の最大利用者数 目標値 B：年間経費にかかる予算額（支出＋職員人件費の合算） 目標値②③：当該年度の効率性の目標値（光熱水費は集落排水含む）				

2 現状分析(Check)

効 率 性 の 現 状	地元より管理人を雇用し（1 人／120,000 円／年）、光熱水費、消耗品費とも必要最小限で運営している。
----------------	---

3 次年度以降への改善点(Action)

具 体 的 な 改 善 方 策	施設利用者へ節水・節電の呼びかけを行い、効率性の向上を目指す。		
H30 年度効率性 の 目 標 値	①利用単位当たり経費 B / A	154.4 円	年間経費（除収入・H29 年度予算）／利用者 数目標値（4,100 人）
	②光熱水費 * 含排水処理施設使用料	84,000 円	当初予算額
	③消耗品費	13,000 円	当初予算額

※参考 前年度までの効率性指標

効率性指標		H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
①利用単位当たり 経費	目標値	3,400 人	3,440 人	4,100 人	4,100 人
	A 実績値	3,277 人	4,127 人	3,701 人	3,250 人
	B 実績値	1,184,638 円	694,983 円	680,698 円	555,863 円
	B / A	361.51 円	168.33 円	183.9 円	171.03 円
	対前年比 (A)	180%	46.6%	93%	87.8%
	目標達成率	99%	127.1%	105.9%	79.3%
②光熱水費 * 含排水処理施設使用 料	目標値	86,658 円	82,000 円	81,000 円	74,000 円
	実績値	82,017 円	75,959 円	69,245 円	61,403 円
	対前年比	89%	92.6%	91.2%	88.7%
	目標達成率	105%	107.9%	85.5%	120.5%
③消耗品費	目標値	15,840 円	11,000 円	15,000 円	15,000 円
	実績値	11,090 円	16,823 円	6,220 円	6,220 円
	対前年比	66%	151.7%	37.0%	241.2%
	目標達成率	142%	65.3%	41.5%	241.2%

平成 30 年度

施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家
----------	------------

番号	22
----	----

4 その他の指標

受益者負担 の適正性	区 分	説 明	単位	H27 年度	H28 年度	H29 年度
	①使用料原価	1 m ² 1 時間当たりの原 価	円	0.0462	0.0378	0.0521
	②稼動割原価率	年間経費を年間収入で 賄えない比率	%	2,748.07%	1,125.46%	3,797.31%
	③ 1 m ² 1 時間 適正使用料	① × ②	円	1,270 円	1,146 円	1,979 円
	④ 現行 1 m ² 1 時間使用料 の平均	—	—			
	⑤適正化計画	—				

【算出式】

① 1 m² 1 時間当たりの原価＝（人件費＋物件費）÷総面積÷年間使用可能時間

②稼動割原価率（年間経費を年間収入で賄えない比率）＝年間経費÷年間使用料収入

③ 1 m² 1 時間適正使用料＝1 m² 1 時間当たりの原価×年間経費を年間収入で賄えない比率

運営に掛か る税負担 (市民負担)	年度		H27 年度	H28 年度	H28 年度	H30 年度(予算)
	人口（4 月 1 日：人）		23,444	22,938	22,938	21,937
	人口 1 人あ たり（円/人）	運営経費	19.3	14.8	14.8	18.69
		年間総経費	28.0	22.1	22.1	27.4

*人口 1 人あたりの運営経費：運営経費（支出合計）／人口

*人口 1 人あたりの年間総経費：下田市負担年間総経費（支出＋職員人件費－収入）／人口

平成 30 年度	施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家	番号	22
----------	----------	------------	----	----

利用者満足度調査

実施の有無	○有 ☒ 無	調査の方法		H 年度調査数	件
○貸館利用者向け					
1 調査結果					
設問	回答種類	H 年度回答数	H 年度回答数	H 年度回答数	
	1				
	2				
	3				
	1				
	2				
	3				
	1				
	2				
	1				
	2				
	1				
	2				
※今年度寄せられたクレーム等 ・トイレの改修（洋式化）を望む声が寄せられている。					
2 調査結果から読み取れること					
3 次年度以降への改善点					

施設修繕計画及び備品購入計画

破損 年度	全ての破損した箇所・備品名	経費見積	修繕・買換等 予定年度	備考（修繕済年度等）
—	耐震診断・補強計画・実施設計策定		未定	
—	耐震補強（大規模改修）工事・監理		未定	
※今後想定される維持管理事項				

平成 30 年度	施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家	番号	22
----------	----------	------------	----	----

管理運営上のその他評価項目

当該施設の必要性 廃止、休止等の可能性 施設の設置目的変更の可能性	教育旅行の研修の場として、地元区から施設存続の強い要望がある。 施設の海拔はおよそ 4mで、海岸から約 200mの地点に位置することから、大規模地震に伴って津浪が発生した場合には大きな被害が想定される。 ＊ 平成 24 年 4 月からは、災害への迅速な対応が困難であるとの理由から、夜間の利用（宿泊）を制限している。 昭和 5 年(1930)に建設された現存する下田市内最古の学校建築建物（旧登自尋常高等小学校）で、大正・昭和初期の木造校舎の原型を留めている好例として地域の教育史・建築史上、その価値を重視する声がある。静岡県近代化遺産候補となっており、文化財としての活用も考えられる。															
民間による管理運営の可能性 今後の管理運営主体の見込み 行政関与の妥当性	「公の施設の管理運営等に関するガイドライン」による施設の位置付け 運用方針：非公募タイプ（福祉の向上、学術・文化・地域振興などの必要性から設置された施設で、管理運営に対する経験やノウハウが極めて重要とされる施設） 位 置 付：一定区域内の学術・文化振興等を目的にしている施設、地域コミュニティの育成などのために設置されている施設 分 類：タイプ3（必要最小限度での市の直営、地縁団体による指定管理または譲渡、廃止） 管理運営の主体を検討する前に、大規模災害対策も含め、施設のあり方について根本的な検討を行う必要がある。															
施設の管理運営と経費の妥当性	現状、必要最低限の経費で運営されている。今後、公の施設として維持するならば、耐震化や避難路の整備等、大規模な改修費用が必要となる。															
施設の性質や実費経費からみた 受益者負担の妥当性	近隣の事例や施設の規模・状況からみて妥当な金額と考えられる。															
その他の管理運営上の課題	全体として経年劣化が進んでいる。															
【参考】 市内や賀茂郡内の類似施設の管理運営状況等	○西伊豆町営やまびこ荘（M40 建築、旧大沢里尋常小学校） 【宿泊料金（H22 耐震工事、リニューアル実施）】 <table><tr><td>対象</td><td>素泊まり</td><td>一泊二食付</td></tr><tr><td>2 歳以上小学生未満</td><td>1,944 円</td><td>4,320 円</td></tr><tr><td>小学生</td><td>2,484 円</td><td>4,860 円</td></tr><tr><td>中学生</td><td>2,808 円</td><td>5,184 円</td></tr><tr><td>高校生以上</td><td>3,456 円</td><td>5,832 円</td></tr></table> ＜その他参考＞ ○熱海市立少年自然の家（宿泊利用） 中学生以下 市内 210 円 市外 640 円 その他一般 市内 430 円 市外 970 円 ○（旧）沼津市立少年自然の家 → INN THE PARK（新規施設） （旧）沼津市立少年自然の家は、公民連携のパークリノベーションとして新規施設として再整備された。 ○三島市立箱根の里少年自然の家（宿泊使用） 中学生以下 市内 200 円 市外 420 円 その他 市内 300 円 市外 620 円	対象	素泊まり	一泊二食付	2 歳以上小学生未満	1,944 円	4,320 円	小学生	2,484 円	4,860 円	中学生	2,808 円	5,184 円	高校生以上	3,456 円	5,832 円
対象	素泊まり	一泊二食付														
2 歳以上小学生未満	1,944 円	4,320 円														
小学生	2,484 円	4,860 円														
中学生	2,808 円	5,184 円														
高校生以上	3,456 円	5,832 円														

平成 29 年度 実施運営事業内容

運営事業名	事業内容	次年度に向けての改善事項
青少年海の家管理運営事業	青少年海を家の管理運営	施設のあり方について検討

平成 30 年度	施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家	番号	22
----------	----------	------------	----	----

施 設 の 概 要

1 施設名 (愛称名)	下田市立青少年海の家	2 担当課 担当係	生涯学習課 社会教育係					
3 所在地	下田市田牛 217 番地	4 設置年月	昭和 41 年 4 月 昭和 50 年 4 月 1 日開設					
5 総合計画の 位置付け	Ⅱ 人が輝くまちづくり	2 未来の人づくり	青少年健全育成					
	基 本 目 標	家庭、地域、学校と関連機関が連携し、 豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。						
	基本目標を実現 するための施策	項目 青少年活動の充実	内容 青少年活動の内容の充実					
6 設置目的	青少年の健全な育成を図る							
7 設置根拠	下田市立青少年の家設置及び管理に関する条例							
8 施設の概要	施設の概要	敷地面積 3,361 m ² 床面積 601 m ² 木造平家建、切妻造、スレート葺き、下見板張ペン塗 【施設の沿革】 昭和 5 年 朝日村立登自尋常高等小学校として建築 昭和 41 年 吉佐美小学校（現朝日小学校）との統合により廃校 昭和 41～50 年 田牛区公民館として利用 昭和 50 年～ 下田市青少年海の家として運用 収容能力 48 ベッド 会議室・談話室・調理室・浴室・広場（旧校庭）						
	実 施 事 業 の 概 要	市内の小・中・高校の児童生徒及び市内青少年団体・社会教育団体等の訓練・研修活動のために設置されている。						
	料 金 体 系	料 金	1 宿泊せず施設を使用する場合 2 宿泊する場合 *H24.4 月から宿泊使用は不可とした。					
		主 な 料 金	1 宿泊せず施設を使用する場合					
			種別	単位	昼	夜	昼夜	備考
			会議室	1 回	300 円	510 円	810 円	
			談話室	〃	200 円	300 円	500 円	
			調理室	1 人	50 円			
			浴室	〃	50 円			
		2 宿泊する場合 *H24.4 から宿泊使用は不可						
	種別	単位	金額		備考			
宿 泊 料	1 人 1 泊	一般	510 円	入浴並びに毛布 1 枚を含む。 光熱水費 100 円別途徴収				
		中学生	200 円					
		小学生	100 円					
毛布使用料	1 枚 1 夜	50 円						
減免内容	(使用料の減免) 第 4 条 下田市立青少年の家設置及び管理に関する条例第 11 条に定める公益上必要と認める使用とは次の場合とする。 (1) 教育委員会が主催し、又は委託する事業に使用する場合 (2) 下田市内の小学校、中学校、又は学区内の高等学校が単独で又は連合して行う教育訓練又は研修のために使用する場合 (3) 教育委員会が認めた社会教育団体が、訓練、研修のために使用する場合 (4) その他特に教育長が適当と認めた場合							
利用料金制度	☐ 有 ☒ 無							
施 設 運 営 方 法	☒ 直接運営							
	☐ 指定管理者制度 →		指定管理者					

平成 30 年度	施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家	番号	22
----------	----------	------------	----	----

		☐ 一部委託 →		委託内容			
	直接従事職員	下田市職員数 1 名					
9 市 内 の 類似施設	下田市所有	あずさ山の家（下田市農村体験宿泊施設）					
	民間所有	なし					
10 取得費等 の情報 (単位：円)	取得費及び財源内訳			平成 29 年度末残高		(備考) 減価償却の方法 ・ 定額法 ・ 残存価 円 ・ 新設翌年度か ら償却 ・ 耐用年数 年	
	土地取得費			土地残高			
	建物取得費			建物減価償却後残高	1 円		
	財源内訳						
	国・県支出金						
	市債			市債残高	0 円		
	一般財源						
	寄附金等						
	物品(* 万円以上)			物品減価償却後残高			
11 年間経費 等推移 (単位：円)	区 分		H27 年度決算	H28 年度決算	H29 年度決算	H30 年度予算	
	収入	使用料	22,170	46,790	17,600	30,000	
		占用料	2,600	2,600	2,600	2,000	
	収 入 合 計		24,770	24,770	20,200	32,000	
	支出	7 節 賃金	120,000	120,000	120,000	120,000	
		11 節 需用費	157,273	89,147	290,100	147,000	
		消耗品	6,220	15,000	12,873	13,000	
		光熱水費	69,245	61,403	62,383	70,000	
		集落排水	17,052	12,744	11,664	14,000	
		修繕料	64,756	0	203,180	50,000	
		12 節 役務費	77,130	31,998	43,261	45,000	
		13 節 委託料	97,199	97,200	97,200	98,000	
		18 節 備品購入	0	0	0	0	
	支出合計		451,602	338,345	550,561	410,000	
	減価償却費		0	0	0	0	
	市債利子		0	0	0	0	
	職員人件費		229,096	217,518	216,495	222,882	
	年間経費 (支出＋職員人件費)		680,698	555,863	767,056	632,882	
	下田市負担年間総経費 (支出＋職員人件費－収入)		655,928	506,473	746,856	600,882	
	備 考	○ 人件費は、実額を算出記載（当該年度の人件費総額を按分し、事務量を勘案の上、0.033 人工で算出した）					
		○ 総経費＝支出合計－収入合計＋職員人件費					
○ H18～21 は地元区長に管理人を依頼。H22 より市が管理人を雇用。							
12 施設利用状 況等の推移	利用 状況	利用年度		H27 年度決算	H28 年度決算	H29 年度決算	H30 年度予算
		利用 者数	市 内	797 人	388 人	556 人	— 人
			市 外	2,904 人	2,862 人	2,639 人	— 人
			合 計	3,701 人	3,250 人	3,195 人	4,100 人
	参考：利用単位 当たり市負担額		177.23 円/人	155.84 円/人	233.76 円/人	146.56 円/人	
	算出方法：11 欄の「下田市負担年間総経費」÷利用者数						
	休館日	なし					
使用時間	昼						